

## UAE 北部首長国の概況とビジネス機会～①シャルジャ首長国～

### 0. はじめに—UAE の「北部首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の8割、GDPの約7割、人口の3割（自国民では4割強）、原油生産の9割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDPの3割・人口の4割を占めている。「**北部首長国**」と総称されるその他5つの首長国は、あわせて残りのGDPの1割、人口の3割弱を構成している。

表①：UAEにおける首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP (十億 USD)	人口 (万人)	自国民人口 (万人)
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 km <sup>2</sup>	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 km <sup>2</sup>	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 km <sup>2</sup>	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 km <sup>2</sup>	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 km <sup>2</sup>	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 km <sup>2</sup>	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウム・アル・クワイン	ムアッラー家	720 km <sup>2</sup>	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
<b>UAE 全体</b>	—	83,600 km <sup>2</sup>	385(2014)	1,043(2018)	95(2010)

出所：The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトを確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017年5月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計442事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており345事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に73事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で24事業所(5%)にとどまっている状況である。

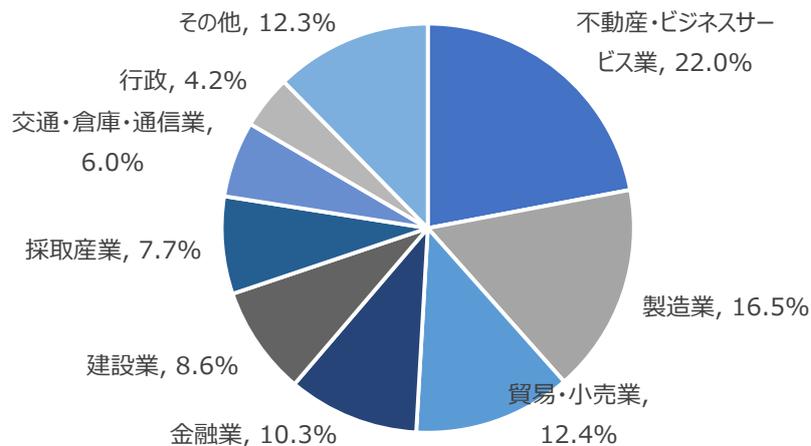
以上のように北部首長国の経済規模や、これまでの日本企業の経済活動は限定的ではあるものの、アブダビ・ドバイと比較して低廉な労働力や各首長国が推進する産業多角化政策などを活かしたビジネス機会が存在する。本シリーズではこうした北部首長国について、首長国ごとに経済概況とビジネス機会の解説を行いたい。以下、本稿では「**シャルジャ首長国**」に焦点を当てて解説する。

## 1. シャルジャ首長国の特徴—産業構造・経済動向

シャルジャはドバイに隣接し、アブダビ、ドバイに次ぐ人口を有する首長国である。自国民の人口はドバイと同等程度だが、全人口は2分の1、経済規模は3分の1程度である。物価や不動産価格が比較的安価であることから、ドバイで就業している労働者層のベッドタウンとしての役割を果たしており、ドバイ—シャルジャ間の道路は、朝夕のラッシュアワー時には特にひどい渋滞が発生する。また、シャルジャではイスラムの戒律が他の首長国と比較して厳しく適用されている。例えばドバイやアブダビでは政府が酒類の提供を許可するライセンスを発給しており、一部の高級ホテルなどでアルコールにアクセスすることができるが、シャルジャでそのような機会はほぼ皆無である。なお、市中心部はドバイに隣接する西岸エリアであるが、いくつかの飛び地がある。中でも東岸エリアのコール・ファクカン(Khor Fakkan)は地政学的リスクを有するホルムズ海峡の外でインド洋に面している立地も活かした地域有数のコンテナ・ターミナル港となっている。

シャルジャのGDPの構成をみると、最も構成比の高い不動産・ビジネスサービス業でも全体の22%であり、シャルジャは多様な産業を有していると言える。

図：シャルジャのGDP構成比（2015年）



出所：Oxford Business Group “The Report: Sharjah 2017”

シャルジャはまた文化・教育・学術都市としての顔もある。シャルジャ・アート・ファウンデーションが運営するアラブの伝統的な家屋群を改造したアート・エリアでは、頻繁にアート展示会等が開催されているほか、イスラム文明博物館などの文化施設が多数存在する。毎年秋口には世界最大規模の図書展「シャルジャ国際ブックフェア」が開かれており、2017年には60か国から1690社の出展、約240万人が来場した。なお2018年開催の同フェアの主賓国は日本となっている。教育・育児に関しては、政府も環境の整備に力を入れており、保育施設から初等・中等教育機関まで国営・民営ともに多くの立地がある。あわせて育児サービス事業者、公共施設、医療環境等も充実し、かつドバイと比較して安価であることも、シャルジャがベッドタウンとなっている要因のようだ。こうした背景から、アラブ連盟の「アラブ・チルドレンズ・パーリア

メント」という子どもの権利・環境改善等を行う機関をシャルジャに設立することが決まっており、同連盟の関係機関が本部のあるエジプト以外に設置されるのは初めてのこととなる。高等教育機関に関しては、シャルジャ国際空港の南側にある「ユニバーシティ・シティ（University City of Sharjah）」というエリアを中心として、シャルジャ大学を始め、アメリカン大学シャルジャ校(AUS)、シャルジャ女子大学、スカイライン大学等、多数の大学が立地しており、「エクシード・スクール・オブ・ビジネス&ファイナンス(Exeed School of Business and Finance)」というビジネス・スクールも存在している。

シャルジャにおける主要な企業グループ(財閥)としては、まずシャルジャの首長家であるカーシミー家が有する「アル・バーサ・グループ(Al Batha Group)」と「ジブカ・グループ(Gibca Group)」という2つがあげられる。両グループとも、欧米企業をはじめとした様々な海外ブランドの代理店業を行っているほか、アル・バーサはエアゾール・石鹼・粉末合成洗剤・パーソナルケア及びホームケア用液体製品等の製造、ジブカは工業品等の製造や建築・土木事業を行っている。また、他に影響力のある地場財閥としては「ブクハティル・グループ(Bukhatir Group)」が挙げられる。ブクハティルも、前述の2グループ同様、各種ブランド品の販売代理店を務めている他、生コンクリート・建設用化学製品・プレハブ建物・鉄製品・足場・アルミ製ドア及び窓・ケーブル・繊維・家具・紙袋等の製造も手掛けている。

その他、シャルジャ発祥の企業では、「グローバル・フード・インダストリー(Global Food Industries LLC)」が、「Al Areesh」、「Arctic Gold」といったブランドで鶏肉、エビ・魚肉、コロッケ、揚げ春巻き等の冷凍食品を展開している。また、シャルジャの大手環境管理会社である「Bee'ah」社は、アブダビの再生エネルギー発電大手で、アブダビ内でのスマートシティ建設も進めている政府系企業マズダール(Musdar)と中東地域での廃棄物発電所開発のため合併企業である「エミレーツ廃棄物発電公社(Emirates Waste to Energy Company)」を2017年5月に設立した。同社の最初のプロジェクトは、シャルジャ内における多種類燃料型廃棄物発電所の建設となる予定で、同発電所では年間30万トンの都市固形廃棄物を処理し、発電容量は約30メガワットとなる見込みである。

## 2. シャルジャ首長国のビジネス環境

シャルジャに事業拠点を設けることのメリットは、ドバイに隣接し、シャルジャからドバイの商圈を狙うことも容易であること、かつドバイと比較してフリーゾーンでの会社設立費用や維持費用、フリーゾーン以外の地域でもオフィス賃料等が安価であること等が挙げられる。一例として、ドバイの空港フリーゾーン(DAFZ)に20平米程度の小規模オフィスを借り、貿易会社を設立した場合、事業ライセンス料(General Trading License)に年40,000ディルハム(約120万円: 1 AED = 30円として計算)支払う必要があるが、下表のシャルジャ空港フリーゾーンでは、年15,000ディルハム(45万円)になる。また、オフィス賃料もドバイでは平米あたり年間約2,200ディルハム(6.6万円)に対して、シャルジャでは年間約1,600ディルハム(4.8万円)である。この様に、国際空港に隣接するフリーゾーンであってもシャルジャの方がドバイよりも会社の設立・維持費用がぐっと安価である。

シャルジャを含む UAE 国内（フリーゾーン外）での法人設立には、本稿執筆時点においては UAE 国民または現地企業による過半数の出資が必要である。上述の SAIF も含め、外国企業が独資での進出が可能、シャルジャの主要なフリーゾーンは次の通りである。

表② シャルジャの主要なフリーゾーンの一覧と概要

区画名	概要
ハムリーヤ・フリーゾーン (Hamriyah Free Zone)	ドバイにある「ジュベル・アリ・フリーゾーン (Jebel Ali Freezone, JAFZ)」と同様、港湾型のフリーゾーンである。2600 万平米の広大な区画に 163 か国から 6500 以上の事業者が立地している。石油ガス、建設、石油化学、香水、材木、鉄鋼、海事等の各産業区域の他、中小企業向けの区域も設けられている。
シャルジャ空港フリーゾーン (Sharjah Intentional Airport Freezone, SAIF)	ドバイの DAFZ と同様、空港に隣接したフリーゾーンで、シャルジャの国際空港に隣接する。設立できる業種は幅広く、小規模のオフィスや、在庫保有のための倉庫設備もある。欧米系の企業では物流大手の DHL、独ステーションリーのペリカン社、英エンジニアリングのアトキンス等多数が立地。後述の通り日本企業も進出している。
シャルジャ・パブリッシング・シティ (Sharjah Publishing City)	「シャルジャ書籍局 (Sharjah Book Authority)」の傘下にあるフリーゾーンで、世界で最初の出版業（出版社及び印刷事業者）向けの産業特化型フリーゾーンである。
シャルジャ・メディア・シティ (Sharjah Media City)	2017 年 1 月に設立された、メディア及びクリエイティブ産業向けの産業特化型フリーゾーンである。シェアオフィス機能も提供されている。

出所：各フリーゾーンのウェブサイト等より作成

SAIF は近接するシャルジャ国際空港の利便性が魅力だ。同空港は「4 時間の飛行時間以内でアクセス可能な都市の人口は 20 億人に上る」等、アクセスの良さを打ち出している。欧州から中東アフリカ、中央アジア・南アジアまで 50 か国へ直行便を就航している格安航空会社のエア・アラビアの拠点空港であり、インド系やパキスタン系等の近隣諸国の航空会社も就航している。

ハムリーヤ・フリーゾーンに直結するハムリーヤ港は、大型コンテナ船が接岸可能な深度 14 m のふ頭を持ち、7m の内港が備わっている。1986 年に液化石油ガスの荷役バースとして開港ののち、一般貨物用バースも追って整備された。前者は現在、英国のオイル & ガスプロバイダーの大手ペトロファク(Petrofak) が運営を行っている。なお同社はシャルジャ中心部に地域拠点であるビルを有し、4,000 人規模の従業員にて UAE をはじめ中東地域の EPC 案件を手掛けている。ほか、港湾では中心部に様々な貨物の荷扱いを行うハリード港が立地しており、現在深度 12m への浚渫工事が進行している。

なお、ビジネス上の課題・留意点として一般的に指摘されていることとして、シャルジャでは行政手続きのオンライン化、合理化・効率化が進みつつあるが、まだまだ時間を有するケースが散見されるようだ。

### 3. シャルジャ首長国のビジネス機会

シャルジャにおいてビジネスチャンスのある産業としては、まず世界でも有数の市場産業集積のある中古車部品関係があげられる。主要工業団地である「シャルジャ・インダストリアル・エリア」には、海外からの中古車部品輸入、海外への再輸出、エリア内への卸売業を営む企業が多数拠点を構えており、複数の機能を備えている事業者も多い。多くのディーラーがコンテナ単位で海外（特に日本）から中古車部品を調達し、敷地内のヤードに在庫を保有している。シャルジャでは、複数のディーラーから様々な部品を大量に調達することが可能となっているほか、アフリカをはじめ、欧州やその他の中東諸国へ発送するためのインフラも整っているため、需給をマッチングさせる市場としての機能を果たしている。

実際に複数の日本企業が中古車部品関連事業をシャルジャで展開している。日本企業の既存のビジネス活動事例として、前述の SAIF において、日野自動車株式会社が研修センター及び部品デポを有しているほか、同区に現地子会社を有する大手自動車リサイクル事業者の会宝産業株式会社は、UAE 内において中古車部品のオークションを設立し、運営している。同社は日本において引き取った廃車から再利用できる部品を輸出し、現地のオークションで販売するというスキームで事業を展開している。また、中古車・中古車部品の買取・販売事業を手掛ける株式会社スリー・ダブリュー・エムの UAE 支店がインダストリアル・エリアに立地している。同社の UAE 支店は、日本からの中古車及び中古車部品の輸入販売の他、海外バイヤーの紹介、現地法人での委託販売サービス、高級外車の輸入サービスを展開している他、日本国内では入手が難しくなった商材をシャルジャで集め、出荷するビジネスも展開している。

また、前述の現地財閥系企業のような地場ネットワークの強い企業とタッグを組んで、UAE や域内諸国市場を開拓していくことも一つの方向性であろう。シャルジャでは人口増加等を背景に小売市場の伸長が見込まれており、既存のモールの増床とあわせ、新規大型モールの建設が進行、2020 年までにショッピングモールの売場敷地面積を 37 万㎡追加する計画となっている。下表で紹介するようなシャルジャの主要な市場は市街地である沿岸部に立地しているが、シャルジャ首長は 2010 年に内陸部の発展のための 25 年計画を発表している。その主要な取り組みの一つとして、シャルジャ最南端にある砂漠の街アル・マダン（Al Madam）にて「アル・バダイール・ショッピング・モール（Al Badayer Shopping Mall）」が 2017 年末にオープンした。オアシスのキャンプをイメージしたデザインの 2 万 4 千㎡の敷地に、27 の店舗が入居。同モールを中心とした「アル・バダイール・オアシス」はとあわせて、広大な砂漠・自然を体験できるデザート・サファリ等を楽しめる観光施設としての側面も持つ。同地は UAE とオマーン国境に近い交通の要所となっており戦略的な位置づけとなっており、こうした開発プロジェクトの進展によって、シャルジャのビジネス機会は広がってきていると言えよう。最後に、現地の消費市場を何ううえで目安となる、主要なショッピングモールの情報を下表にて取りまとめる。

表③ シャルジャ市街地の主要なショッピングモール（出所：各社ウェブサイト等より作成）

名称	概要
セントラル・マーケット (Central Market)	別名ブルースーク。伝統的なスークを室内化したもので観光施設の意味合いも強い。昔ながらの土産・雑貨屋、カーペット店などの小規模な小売店がところせましと並んでいる。
サハラ・センター (Sahara Centre)	172,213 平米、305 店舗、2002 年オープン。シャルジャ最大の近代的なモール。近年大規模な拡張工事を終え、レストランなどの食やエンターテイメント性が一層充実してきた。
シティ・センター・シャルジャ (City Centre Sharjah)	51,428 平米、143 店舗、2001 年オープン。中東諸国に数多くのモールを展開するドバイ最大手財閥アル・フタタイムが経営する。多くの国際ブランドが店舗を構えている。市中心部に立地する中型モール。
メガ・モール (Mega Mall)	74,322 平米、約 150 店舗、2002 年オープン。大型のエンターテイメント設備はないが、レストラン、映画館と子供向けゲームセンターなど、ファミリー向け施設は揃っている。
サフィア・モール (Safeer Mall)	46,451 平米、140 店舗、2001 年オープン。市中心部に立地する中型モール。他の GCC 諸国でもモール等を展開する UAE リテール大手サフィア・グループ経営。
サフィア・マーケット (Safeer Market)	サフィア・グループが経営する、小規模なモールで市内に 4 店舗展開している。スーパーの他に専門店が数店舗入っている。
ゼロ 6 モール (Zero 6 Mall)	2018 年 4 月オープン。37,000 m <sup>2</sup> 、40 店舗前後の中型モールだが、シャルジャでは珍しく最新のトレンドを意識したデザイン、テナント層となっている。UAE で最も大きな IMAX スクリーンがある映画館も入居。
シティ・センター・アル・ザヒア (City Center Al Zahia) <建設中>	2020 年にオープン予定。136,200 m <sup>2</sup> 、約 400 店舗が入居予定のドバイ財閥アル・フタタイムが計画する大型モール。カルフル、VOX シネマ、マジック・プラネット（家族向けエンタメ施設）等を備える。

以上

UAE北部首長国の概況とビジネス機会～①シャルジャ首長国～（2018年10月改訂）

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC

日本貿易振興機構（JETRO）ドバイ事務所

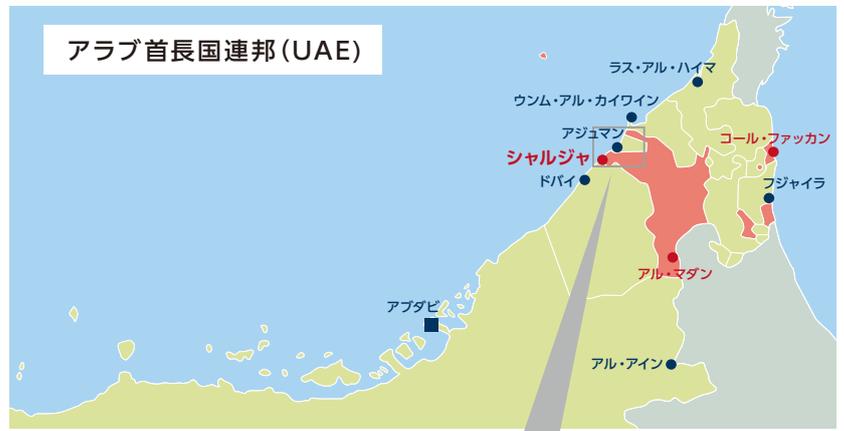
35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。JETROではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

# シャルジャ首長国

## 基本情報

首長家 …………… カーシミー家  
 面積 …………… 2,590km<sup>2</sup>  
 名目GDP …………… 310億USD (2014)  
 人口 …………… 141万人 (2014)  
 自国民人口 ……… 15万人 (2010)



### 主要ショッピングモール

- ① セントラル・マーケット (Central Market)
- ② サハラ・センター (Sahara Centre)
- ③ シティ・センター・シャルジャ (City Center Sharjah)
- ④ メガ・モール (Mega Mall)
- ⑤ サフィア・モール (Safer Mall)
- ⑥ ⑦ サフィア・マーケット (Safer Market)
- ⑧ ゼロ6モール (Zero 6 Mall)
- ⑨ シティ・センター・アル・ザヒア (City Center Al Zahia) <建設中>



### 住居タイプごとの立地状況

- ヴィラ (戸建住宅)** : 主にUAE人が居住する。市中心部北側の海岸沿いや大学エリアの東側などを中心に、市内各地に点在。
- 高層マンション** : 市中心部のハリード・ラグーン沿い等に立ち並び、中所得者以上の外国籍居住者が主に居住する。
- 集合住宅** : シャルジャで一般的な住宅タイプ。市中心部をメインに広がり、ドバイへ通勤する外国人労働者も多く居住。
- 労働キャンプ** : インダストリアル・エリア等に点在する建設作業労働者等用の居住施設。